

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和6年7月)

～インバウンド効果等で現状判断は続伸も、節目の50は下回ったまま～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断が47.7と前月比で2か月連続の上昇(+0.1ポイント)となった。ただ、好不調の判断の目安となる50.0は4か月連続で下回っている。一方、先行き判断も48.5と2か月連続の上昇(+0.9ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンド市場は依然として好調な推移を続けており、百貨店を中心とした関連業界では、需要の増加が続いている。為替環境についても、7月はほぼ1ドル150円台後半の円安水準が続いたことで、インバウンド消費への大きな追い風となった。
- 一方、それ以外の要素には比較的厳しいものが多い。猛暑による影響についても、夏物商材の販売増加につながった一方、外出を控える動きも増える形となった。また、かねてからの物価上昇による影響は依然として厳しく、客足の減少に加え、節約志向を背景とした購入量の減少などにつながっている。
- 景気の先行きについては、引き続きインバウンドの増加への期待は大きく、百貨店やホテルなどを中心に、売上の増加を期待する声が多い。ただし、為替がやや円高傾向に変化しつつあることで、訪日客の消費が鈍化に向かうとの声も出始めている。
- 一方、今夏の猛暑予想は、先行き判断に限ってはプラス材料となっている。一部で厳しい残暑が及ぼす影響への懸念もあるものの、夏物商材の販売増を期待する声が多い。その一方で、日銀の利上げによる影響については警戒感が強まっており、住宅ローン金利や融資金利の上昇が進むにことで、先行きへの不安が高まっている。
- 物価やコストの上昇に対する警戒感も、依然として非常に強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。為替が円高傾向となる動きが出てきたものの、物価面への影響を期待する声はまだ限定的となっている。

「猛暑」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(サービス担当)	・猛暑の影響で、涼感商材の紳士用品や婦人用の身の回り品、雑貨が好調であるほか、イベントや催事も集客力アップに貢献している。また、インバウンド売上も好調で、売上の拡大につながっている。
		家電量販店(企画担当)	・7月上旬からの連日の猛暑により、エアコンの販売が絶好調である。それに伴い、冷蔵庫や扇風機もよく売れている。
	やや良くなっている	一般小売店[化粧品](経営者)	・7月に入り、気温の上昇とともに、制汗商材や夏のメイク商材の動きは活発化している。前年よりも祝日が2日減ったにもかかわらず、今月も売上が前年を上回る形となった。都市中心部の店舗は売上が10%増となったほか、郊外店舗も5%前後の伸びとなるなど、新型コロナウイルスの5類感染症への移行から1年が経過した後も、売上の増加が続いている。特にフレグランス関連の増加が大きく、ギフト目的での需要と自家需要の両方で前年の2倍近い売上となり、全体をけん引する形となっている。
		コンビニ(店員)	・暑さが厳しくなり、飲料やアイス類など、冷たい商品が売れている。
		家電量販店(経営者)	・猛暑でエアコンの販売が増えているほか、住宅省エネ2024キャンペーンの影響で、省エネ型給湯器の購入や水回りのリフォーム案件が増えている。
	家電量販店(店員)	・今夏は例年よりも暑さが厳しくなるとの予報から、早期にエアコンの購入を検討するケースが多いほか、エアコン価格の上昇もあって前年よりも好調である。ただし、その他の家電製品が良い動きではないため、景気が良いとは言えない。	

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	タクシー運転手	・以前と比べると気温が上がっているほか、雨などの影響もあり、近距離でもタクシーに乗る客が増えた。それに伴い、売上は10%ほど増えている。
	変 わ ら な い	スーパー（経営者）	・長雨と猛暑が続いており、外出を控える人が増えたせいか、来客数が伸びない。
		スーパー（店長）	・気温が高くなり、日暮れ頃からの来客数が増えているが、昼間の減少分はカバーできていない。
		スーパー（店員）	・猛暑の影響で野菜や果物の価格が前年よりも上がっているなか、カット野菜やカットスイカは毎日よく売れている。
		スーパー（経理担当）	・猛暑が続くなか、暑さ対策の商品やスタミナがつく食材の売行きが伸びている。一方、米の不足が報じられたことで、店頭でも品薄になっている。価格も上昇しており、消費への影響が懸念される。
		コンビニ（店員）	・異常な暑さでアイスやドリンク類の売行きは好調であるが、揚げ物の売上は激減している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・今年も猛暑の影響で、ガソリンの販売量は7月に入って急増しているが、前年比では横ばいである。消費者物価が上昇するなか、ガソリン代を節約する動きはみられない。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・UV関連や制汗剤といった夏物商材のほか、化粧品・化粧雑貨などは順調に動いている。一方、食品や日配品などの生活必需品は横ばいで、医薬品や健康食品、衛生用品は減少が続いている。来客数は3か月前と比べて大きな変化はなく、買上点数は減少となったが、1品単価が上昇したことで、客単価は若干の増加となっている。
		観光型ホテル（経営者）	・例年7月は来客数が減るが、今年は猛暑であるものの、天候は安定していることもあり、客が動いている。
		都市型ホテル（管理担当）	・厳しい暑さやオーバーツーリズムの影響で、予約のキャンセルも出ているが、アジア圏の観光客による間際予約により、宿泊予約は横ばいの状況である。
		テーマパーク（職員）	・余りの暑さに、客が外出を控える動きが目立つ。
	遊園地（経営者）	・物価の上昇もあり、レジャーへの支出が減っている。また、暑さが人の外出行動に大きな影響を及ぼしており、屋外型施設への客足が止まる要因になっている。	
	その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	・来客数はほぼ横ばいとなっている。夏休みに入ったほか、パリオリンピックの開催でスポーツを楽しむ気運は高まるが、連日の酷暑で利用が増えるかどうかは不透明である。	
	や や 悪 く な っ て い る	一般小売店〔時計〕（経営者）	・7月以降の異常な暑さにより、来客数の減少が著しい。テレビ番組の気象予報でも、危険な暑さという言葉が毎日のように使われており、外出が避けられている。冷房で涼しい大型商業施設に人が集まるのは仕方がなく、路面店にとっては厳しい状況となっている。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・暑い日が続いている影響で活気がなく、景気が上向き気配はない。販売に関しても低調である。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・連日、日中の気温が35度を超過しており、午前中から既に暑い。当店は50代以上の女性客が大半で、来店は午前中が中心であるが、午前中から気温が30度を超過しているため、外出を控える人が多く、来客数が減少している。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・暑過ぎるため、客は午前中だけ来店し、その後は少なくなっている。
		一般小売店〔花〕（店長）	・猛暑の影響で悪化している。
		百貨店（販促担当）	・今月の中旬から、梅雨明け後の猛暑の影響で来客数が伸びない。ニュースでも連日猛暑が報じられ、時には不要不急の外出を控えるべきとの発信もあり、その影響も受けている。また、物価上昇の継続に加え、急激な暑さの影響で食品の売上が厳しくなっており、来客数も前年を下回る動きとなっている。
		スーパー（企画担当）	・猛暑によって来客数が減り、売上も低迷している。新米の価格が上がるなか、古米の販売が一気に増えているが、入荷状況が悪く、欠品の状態が続いている。売上の規模が大きいため、店全体の売上にも影響している。
スーパー（販促進捗担当）		・商品の値上げによる影響は、懸念されたよりも少ないが、気温が高過ぎる影響が出ている。日中の来客数が減っている一方、朝晩の来客が増えたほか、販売量の落ち込みによる売上の減少もみられる。	
スーパー（社員）		・今月になって日中の気温がかなり上昇し、チラシを投かんしたり、イベントを実施したりしても、以前ほどは来店が増えないほか、来店客にも積極的に買物をする動きが少ない。	
衣料品専門店（店員）		・需要の閑散期に入ったほか、特に今年は気温が高い影響か、来客数が減っている。	
な や や 良 く な っ て い る	一般レストラン（経営者）	・梅雨明け後の連日の猛暑により、来客数は激減している。商店街では夏祭りも開催されたが、前年の方が人出は多く、今年は少なめとなっている。	
	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・猛暑により熱中症警戒アラートが発出され、国内レジャー客が外出を控えている。その一方、インバウンドの動きは引き続き堅調である。	
企 業	な や や 良 く な っ て い る	食料品製造業（営業担当）	・猛暑日が続いていることもあり、飲料の売上は少し良くなっている。夏祭りに伴う需要で、飲料のケース販売も目立っている。

企業関連	変わらない	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・猛暑の影響でエアコンの動きが好調なほか、パリオリンピックを見据え、テレビの販売も好調に推移している。ただし、猛暑やパリオリンピックの開催という外部要因で需要が伸びているだけであり、景気が良くなっているとは言いきれない。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・気温が例年よりも高いため、販売店への来客数が減少している。
		その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・7月は梅雨明けが早く、気温が高かったこともあり、夏物商材の動きは良いが、それ以外は特に変わらない。

「日銀利上げ」関連のコメント(先行き判断)

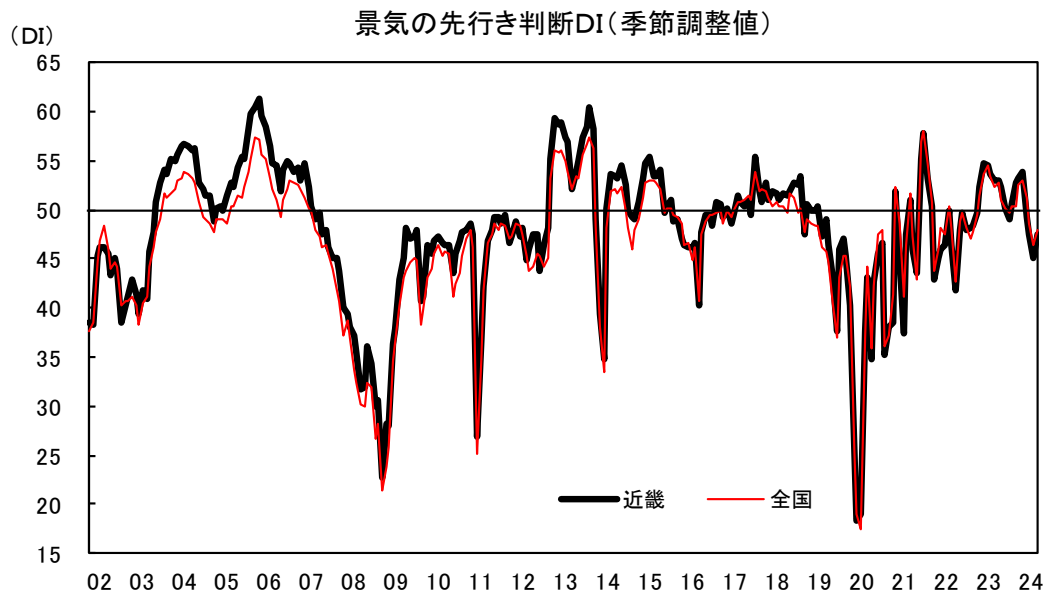
家計動向関連	変わらない	その他レジャー [スポーツ施設] (業務担当)	・金利が0.25%に引き上げられたことで、どのような影響が出るかを注視したい。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介] (経営者)	・金利の上昇で景気がどの程度減速するかにもよるが、大きな変動要因はないため、景気の変化はないと予想される。
	やや悪くなる	百貨店 (外商担当)	・日米間の金利差が縮小する見込みであるため、円高の進行につながる。それに伴い、インバウンド売上もかなり落ち着くことが予想される。
		百貨店 (売場統括)	・免税売上の前年比伸び率が鈍化するなか、日本の金利上昇や米国での前大統領の再登板などで、更に円高が進むことが予想されるため、更なる免税売上の減少が懸念される。
		住関連専門店 (店長)	・当社の事業は、経済政策や為替相場の変化の影響をダイレクトに受けるため、日本銀行による金利の引上げという大きな変化が、消費者にどのような影響を及ぼすのかを注視している。特に、増えつつあった富裕客の消費に水をささないか心配している。
住宅販売会社 (従業員)	・金利の引上げによる住宅ローン金利の上昇で、返済負担の増加につながるため、消費マインドの低下が懸念される。		
企業動向関連	やや良くなる	繊維工業 (総務担当)	・日本銀行が金利を上げる方向に政策転換する期待感から、円高方向に徐々に動くことが期待される。
	やや悪くなる	その他雇用の動向を把握できる者	・政策金利の上昇により、企業の借入れコストに影響が出る。

「猛暑」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店 (サービス担当)	・夏季のイベントや催事が予定されているほか、猛暑対策商材を強化する。さらに、店舗のリニューアルオープン効果やインバウンドの増加傾向も続くため、前年実績を上回る状況が続くと予想される。
		コンビニ (店員)	・暑いなかでも、引き続き多くの客が来店しているため、天候や季節に左右されず、年間を通して来客数の増加が続く。
	やや良くなる	百貨店 (販促担当)	・真夏は来客数の動きなどが懸念される。2~3か月先は気候にもよるが、少し暑さも落ち着き、消費意欲も旺盛になることが期待される。夏に少し控えた分、秋の味覚や旅行を楽しむ傾向が高まるなか、気候の予報にも敏感になるため、消費の場面を具体的に提案していくことが必要となる。
		一般レストラン (経営者)	・暑さが和らげば人の動きが出てくるほか、働く人の時給が増えることで、外食の機会も増える。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・暑さが和らげば、国内のレジャー客や観光客は戻ってくるほか、インバウンドの動きは引き続き堅調に推移すると予想される。
	変わらない	一般小売店 [衣服] (経営者)	・ここ数年は、9月、10月になっても残暑が厳しい。本来であれば秋物商材を売るべき時期であるが、残暑の影響で秋物商材を販売する時期が短くなっているため、売上がなかなか伸びない。
		百貨店 (売場マネージャー)	・為替の動きなどが見通せないなか、個人消費への影響がどう出るかは予想が難しい。一方、酷暑が続く中で、今後は店頭での動きも変わってくる。
		百貨店 (マネージャー)	・当面は、今春の改装効果で好調を維持できそうである。ただし、今年は残暑が厳しくなるとの予想であり、特にファッション関連は秋冬商材の売行きが懸念される。
		百貨店 (売場マネージャー)	・食品を除く衣料品関係の売上は、厳しい状況が続くそうである。まず天候面では猛暑が続き、来客数は減少するほか、商品の値上げや水道・光熱費の上昇の影響で、消費者の生活防衛意識は更に強まる。インバウンドの動きも為替の関係で不透明な部分があり、予測が難しい状況である。
		スーパー (店員)	・毎日猛暑が続くことで、野菜への影響は更に出てくることから、非常に厳しい状況となる。
スーパー (経理担当)		・米不足や猛暑による野菜価格の高騰など、今後の食費への影響が懸念される事象が続いている。消費マインドの低下や節約志向の高まりによる、景気への影響が懸念される。	

家計動向関連	変わらない	コンビニ（店長）	・コロナ禍が落ち着き、比較的安定した売上を維持している。今後更に右上がりとなるためには、夏の暑さで、ソフトドリンクや冷たい調理麺といった商品が伸びる必要がある。暑過ぎて来客数が減るほど、気温が上がらないことを願っている。
		衣料品専門店（店員）	・気温の変動にもよるが、大きな変化はないと予想される。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・大阪・関西万博に向けて人が集まってくるなど、プラス材料はあるが、厳しい暑さが売上に悪影響となる。
		タクシー運転手	・週末の繁華街では多くの客が見受けられる。夏休みや猛暑の影響もあり、今後も現状が続く。
	やや悪くなる	一般小売店〔花〕（店長）	・暑さで外出を控える動きが増える。
		百貨店（商品担当）	・平均気温の上昇で、9月、10月の秋物衣料の販売が年々厳しくなっている。今年の猛暑では、その傾向が一段と進んでいる。さらに、メーカー各社が在庫を持たなくなっていることで、数少ない売れ筋商品の欠品が予想されるほか、需要喚起策の効果も薄い。ひとまずは食品イベントを強化し、売場の鮮度を維持したい。
		家電量販店（企画担当）	・旅行や帰省に関する消費が増えるため、猛暑は続くとの予報であるが、家電の消費は止まると予想される。
		家電量販店（人事担当）	・酷暑に伴う気温の上昇で、外出を避ける動きが出始めたため、来客数の減少が懸念される。
	悪くなる	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・暑さの影響で外出が減っているほか、物価の上昇もあって悪くなる。
	企業関連	やや良くなる	化学工業（企画担当）
変わらない		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・猛暑は例年のことであり、消費者には慣れがみられる。それに伴い、駅ナカ店舗も客足は落ちておらず、夏物商材が10月初旬までは売れると予想される。
		通信業（管理担当）	・毎月のように行われる商品の値上げで、買い控えにつながっている。ただし、気温の上昇で総菜が売れるなど、若干上向く傾向にも期待される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年			23年							24年														
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現状判断	近畿	38.8	43.3	50.8	51.3	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	50.1	53.5	50.5	48.1	45.7	47.6	47.7
	(全国)	43.0	45.5	49.5	51.8	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2	51.3	49.8	47.4	45.7	47.0	47.5
先行き判断	近畿	41.8	48.0	49.6	47.9	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1	53.8	49.2	47.5	45.1	47.6	48.5
	(全国)	42.6	48.8	49.6	48.2	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5	53.0	51.2	48.5	46.3	47.9	48.3

※季節調整値